

Ⅱ 調査結果

1. 全病院の特性

回答を得た病院の許可精神病床数の平均は179.8床、在院患者数（1997年7月10日現在）の平均は167.0人であった。

平均在院日数は604.2日であった。

1) 看護料と特定入院料の取得状況

看護料を算定している病院（194病院）に関して、看護料と特定入院料の算定状況を見ると表1のようであった。「新看護料のみ」もしくは「基準看護料のみ」で特定入院料を算定していない病院が88.0%を占めた。

2) 看護料・特定入院料別の看護職員配置

看護料を算定している病棟および特定入院料を算定している病棟それぞれに関し、実際配置されている患者数対看護職員数を見ると表2のようであった。

2. 精神病院の精神病床の特性

精神病院からの回答は、94病院、499病棟分であった。

1) 病棟ごとの平均在院日数の分布

病棟単位で見た平均在院日数の分布は表3のようになった。

表1 看護料と特定入院料の算定状況 (%)

		病院数
新看護料	新看護のみ	130 (67.7)
	新看護+精神急性	5 (2.6)
	新看護+精神療養	5 (2.6)
	新看護+精神療養+痴呆治療	2 (1.0)
	新看護+精神療養+痴呆療養	2 (1.0)
	新看護+痴呆治療	3 (1.6)
	新看護+痴呆治療+痴呆療養	1 (0.5)
	新看護+痴呆療養	1 (0.5)
	計	192 (100.0)
基準看護料	基準看護のみ	39 (20.3)
	基準看護+精神療養+痴呆治療+痴呆療養	1 (0.5)
	基準看護+痴呆治療	1 (0.5)
	基準看護+痴呆療養	2 (1.0)
計		192 (100.0)

*表中にない組み合わせは取得病院がなかった。

表2 看護料もしくは特定入院料を算定している病棟別の実際の看護職員配置

		1.5:1	2:1	2.5:1	3:1	4:1	5:1	6:1	7:1	7:1未満
看護料算定病棟		17	37	96	153	142	45	23	10	4
特算 定入 院棟 料	精神急性	—	1	—	4	1	—	—	—	—
	精神療養	—	1	2	5	9	15	11	—	—
	痴呆治療	1	—	5	1	3	1	3	—	—
	痴呆療養	—	—	—	1	3	7	—	—	—

参考：特定入院料の看護職員の配置基準は以下の通り。

精神科急性期治療病棟入院料A	2.5:1
精神科急性期治療病棟入院料B	3:1
精神療養病棟入院料A	3:1
精神療養病棟入院料B	5:1
老人性痴呆疾患治療病棟入院料	6:1
老人性痴呆疾患療養病棟入院料A	6:1
老人性痴呆疾患療養病棟入院料B	6:1

表3 病棟単位で見た平均在院日数の分布（精神病院の精神病床）（%）

	病棟数
30日以内	1 (0.2)
31~90日	13 (2.8)
91~180日	71 (15.5)
181日~1年	112 (24.4)
1~2年	116 (25.3)
2~5年	107 (23.3)
5年以上	39 (8.5)

表4 病棟の特性別の諸状況（精神病院の精神病床）

	病棟数	平均在院日数	病床利用率	在棟患者数
救急	1	274.3日	76%	32.0人
急性期閉鎖	94	373.2	96	52.9
急性期開放	9	369.9	86	44.2
慢性期閉鎖	74	1,324.9	98	56.2
慢性期開放	118	1,067.7	95	56.5
社会復帰	35	1,077.2	97	58.9
分類不能	129	486.6	91	52.5

2) 病棟の特性別の諸状況

急性-慢性、開放-閉鎖などの特性から病棟を分類した結果得られた、「救急病棟」「急性期閉鎖病棟」「急性期開放病棟」「慢性期閉鎖病棟」「慢性期開放病棟」「社会復帰病棟」「特性を明確に分類できない病棟」に関し、それぞれごとに、平均在

院日数・病床利用率・在棟患者数の平均を見ると表4のようになった。

平均在院日数に関しては、救急・急性期の病棟が慢性期の病棟と比べ、3分の1程度と短かった。

病床利用率は、救急病棟が76%、急性期開放病棟が86%であった以外は、95%前後と高い値であった。

表5 在棟患者の主たる疾患の特性別の諸状況（精神病院の精神病床）

	病棟数	平均在院日数	病床利用率	在棟患者数
精神分裂病	269	869.5日	96%	56.7人
そううつ	2	229.4	92	48.0
神経症	3	240.9	83	43.7
痴呆	58	743.9	93	50.2
中毒性疾患	7	121.7	77	40.6
身体合併症	21	781.8	92	50.1
その他	13	360.2	86	41.0
分類不能	87	544.0	94	52.9

表6 実際の看護職員の配置別の平均在院日数とその分布（精神病院の精神病床）

	病棟数	平均在院日数	30日以内	31~90日	91~180日	181日~1年	1年以上
1.5:1以上	16	464.0日	17%	11%	7%	12%	53%
2:1	22	231.3	16	21	11	11	40
2.5:1	70	572.0	12	13	10	8	56
3:1	124	528.8	11	12	8	8	61
3.5:1	70	856.7	7	9	7	6	70
4:1	70	1,104.2	6	8	6	7	73
5:1	68	1,133.8	4	6	5	9	76
6:1	37	982.6	5	7	5	6	78
7:1	9	1,196.3	7	6	4	9	74
7:1未満	4	986.0	7	10	9	9	66

在棟患者数は、病床利用率と同様に、救急病棟が32.0人、急性期開放病棟が44.2人であった以外は、55人前後であった。

3) 在棟患者の主な疾患別の諸状況

病棟を在棟患者の主たる疾患別に分類し、それぞれについて、平均在院日数・病床利用率・在棟患者数の平均を見ると表5のようになった。精神分裂病を主な疾患とする病棟が269病棟（58.4%）で最も多かった。分類不能な病棟も87病棟（18.9%）あった。

平均在院日数は、精神分裂病の患者が中心の病棟が869.5日と最も長く、他に身体合併症を持つ患者が中心の病棟781.8日、痴呆性疾患の患者が中心の病棟743.9日であった。また、中毒性疾患

を持つ患者が中心の病棟は121.7日と最も短かった。

病床利用率は、精神分裂病、そううつ、痴呆性疾患、身体合併症の各病棟で90%を超えていた。中毒性疾患は77%と最も低かった。

在棟患者数は、精神分裂病が最も多く56.7人であった。最も少ないのは中毒性疾患で40.6人であった。

4) 実際の看護職員配置別の諸状況

病棟単位で、実際の看護職員（看護婦および准看護婦）の配置ごとに、平均在院日数の平均、在院期間の分布を見ると表6のようになった。

3:1以上の配置の場合は平均在院日数が500日程度以下であった。特に、2:1の配置の場合

表7 病棟単位で見た平均在院日数の分布（一般病院の精神病床）（%）

	病棟数
30日以内	2 (1.4)
31～90日	28 (20.3)
91～180日	49 (35.5)
181日～1年	39 (28.3)
1～2年	12 (8.7)
2～5年	8 (5.8)

表8 病棟の特性別の諸状況（一般病院の精神病床）

	病棟数	平均在院日数	病床利用率	在棟患者数
救急	0	—	—	—
急性期閉鎖	30	128.0日	86%	39.8人
急性期開放	10	106.4	93	41.7
慢性期閉鎖	20	571.6	88	54.3
慢性期開放	16	382.8	92	44.6
社会復帰	6	150.0	82	44.7
分類不能	57	192.0	88	50.7

は231.3日と最も短かった。一方、配置が4：1を下回ると、平均在院日数の平均はおおむね1,000日を越えた。

3. 一般病院の精神病床の特性

一般病院の精神病床についての回答は、103病院、146病棟分あった。

1) 病棟ごとの平均在院日数の分布

病棟単位で見た平均在院日数の分布は表7のようになった。

2) 病棟の特性別の諸状況

精神病院の場合と同様に、急性-慢性、開放-閉鎖などの特性から病棟を分類し、それぞれごとに、平均在院日数・病床利用率・在棟患者数の平均を見ると表8のようになった。病棟の特性を分

類できない病棟が57病棟あったが、残り82病棟は分類可能であった。

平均在院日数に関しては、急性期病棟、社会復帰病棟が100日台であった一方、慢性期病棟は382.8日、571.6日と長かった。

病床利用率は、82～93%であった。

在棟患者数は、39.8～54.3人であった。

3) 在棟患者の主な疾患別の諸状況

精神病院での場合と同様に、在棟患者の主たる疾患の特性別で病棟を分類し、それぞれに関し、平均在院日数・病床利用率・在棟患者数の平均を見ると表9のようになった。分類不能の病棟が87病棟（59.2%）で最も多かった。ついで精神分裂病を主な疾患とする病棟が41病棟（27.9%）であった。

平均在院日数は、痴呆性疾患の患者が中心の病棟が632.3日と最も長く、ついで精神分裂病患者

表9 在棟患者の主たる疾患の特性別の諸状況（一般病院の精神病床）

	病棟数	平均在院日数	病床利用率	在棟患者数
精神分裂病	41	337.7日	86%	57.1人
そううつ	10	107.9	85	32.4
神経症	5	120.9	88	35.4
痴 呆	4	632.3	81	35.3
中毒性疾患	0	—	—	—
身体合併症	3	127.3	82	42.7
その他	1	28.1	93	37.0
分類不能	87	213.5	90	45.3

表10 実際の看護職員の配置別の平均在院日数とその分布（一般病院の精神病床）

	病棟数	平均在院日数	30日以内	31～90日	91～180日	181日～1年	1年以上
1.5:1以上	9	92.6日	38%	33%	13%	7%	11%
2:1	17	104.1	30	31	17	9	13
2.5:1	38	193.7	24	23	15	8	31
3:1	48	268.6	16	16	10	6	53
3.5:1	17	447.9	12	11	9	8	63
4:1	9	443.0	7	9	5	8	72
5:1	0	—	—	—	—	—	—
6:1	0	—	—	—	—	—	—
7:1	1	240.0	2	6	2	4	87
7:1未満	1	454.3	6	4	4	2	85

表11 届出新看護料による看護職員配置と実際の看護職員配置

(%)

		実 際 の 配 置								
		1.5:1	2:1	2.5:1	3:1	3.5:1	4:1	5:1	6:1	6:1未満
届 出 配 置 基 準	2:1	3 (50.0)	2 (33.3)	1 (16.7)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
	2.5:1	— (—)	4 (36.4)	6 (54.5)	1 (9.1)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
	3:1	2 (3.4)	4<1> (6.9)	18<10> (31.0)	29<7> (50.0)	4<2> (6.9)	1<1> (1.7)	— (—)	— (—)	— (—)
	3.5:1	— (—)	1 (4.3)	— (—)	12 (52.2)	8 (34.8)	2 (8.7)	— (—)	— (—)	— (—)
	4:1	— (—)	— (—)	— (—)	2 (22.2)	4 (44.4)	2 (22.2)	— (—)	— (—)	1 (11.1)
	5:1	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	3 (27.3)	8 (72.7)	— (—)	— (—)
	6:1	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (11.1)	6 (66.7)	2 (22.2)	— (—)
計		5 (3.9)	11 (8.7)	25 (19.7)	44 (34.6)	16 (12.6)	9 (7.1)	14 (11.0)	2 (1.6)	1 (0.8)

*届出配置基準3:1の行にある<>内は精神病院単科の病院。

*新看護料をとる病院のうち届出の看護職員配置基準と実際の看護職員配置のギャップを調べたもので、上段は病院数、()内は届出配置基準ごとの割合。

が中心の病棟が337.7日であった。そううつ、神経症、身体合併症を持つ患者が中心の病棟は100日を超える程度であった。

病床利用率は、81～93%であった。

在棟患者数は、精神分裂病が最も多く57.1人であった。そううつ、神経症、痴呆、その他の患者が中心の病棟では、35日前後であった。

4) 実際の看護職員配置別の諸状況

実際の看護職員（看護婦および准看護婦）の配置ごとに、平均在院日数の平均、在院期間の分布を見ると表10のようになった。

2.5 : 1以上の配置の場合は平均在院日数が200日以下であった。特に、1.5 : 1では92.6日、2 :

1では104.1日と短かった。一方、配置が3.5 : 1、4 : 1の場合は、平均在院日数の平均は400日を超えた。

4. 新看護料算定病院の職員配置

新看護料を算定する病院（127病院）について、算定している新看護料の看護職員配置基準と実際に配置している看護職員の数と比較したところ表11のようになった。

特に、新看護3 : 1を届け出している病院で、実際の配置が2 : 1や2.5 : 1など、大幅に基準を上回っている例が多く見られた。